

協議事項に対する意見書のまとめ

資料1 - 2

【お尋ね2】ボランティアポイント制度の導入について

課題

- ・ 活動者、参加者双方へのポイント付与
- ・ 対象者、対象活動の検討
- ・ ポイント制度のシステム作成と管理
- ・ 「健幸マイレージ」との連携

〇ご意見1. 制度設計にあたって

- ・ 財源をどのように確保するか。
(早急に検討すべき)
- ・ 制度の実施、管理機関として民間活用も視野に入れて早急に検討すべきと考える。
- ・ 課題を十分に検討した上で新たな仕組みを立ち上げるのではなく現在、川西市で取り組まれている「かわにし健幸マイレージ」にボランティア活動を追加メニューとして加えることが、現実的かつ効果的ではないか。
- ・ 財源については未定
- ・ 事例表示をしていただいておりますが、今のこの時点でここまで詳細に考えられない。もう少しポイント制について考えてみてもよいのでは。
- ・ 既に各地域で取り組まれている団体もあるので、どのようにポイント制度の中に入れてゆくのか等いろいろ考えて難しい(そういう活動等を白紙状態として考えてもよいのか)。

2. 取組み開始時の検討事項として

- ・ 活動内容により責任の所在を明確化すること。
- ・ 急な用件にも比較的対応ができるシステムにすること。
- ・ 高齢者だけでなく子どもから大人まで幅広く支え合えるシステムにすること。
- ・ 活動者にとって手軽にできるバリエーションがあること。
- ・ ボランティアポイントの現金化やスマホアプリを活用した手続きの簡素化の検討
- ・ 川西市のお店と協賛して川西市クーポン券発行を検討
- ・ 関係機関 川西市社会福祉協議会か？
- ・ ボランティア登録条件 必要

3. 活動の対象

- ・ どの程度の活動に何ポイントを付与しどのような還元を行うか。
- ・ どのような活動に対してポイントを付与するか。
- ・ 活動者、参加者双方にポイントを付与し、活動者に手厚くする。
- ・ 対象者は、市内在住、年齢制限なし(市街在住者の活動者への対応は要検討)
- ・ ポイントの対象活動は、地域福祉活動全般
- ・ 登録条件 地域で実施する事業の登録
- ・ 訪問型サービス B・D に相当する活動や老人施設、街の安全パトロール等あまり広げ

すぎない方が良いと思う。

- ・ いきなり個人宅で行うとなるとトラブルも多く想定されることから病院や施設内での活動からと思う。しかし人材不足や超過労働につながっているものを解決するのであれば早朝・準夜勤等の見守りが軽介助となる。ただ、活動にムラがあるとあまり意味のないものとなりそう。
- ・ ゴミ出し、受診等、自宅と地域等をつなぐ形での活動に向けた研修 活動 振り返りが良いのではないか。
- ・ 認知症サポーター チームオレンジ ボランティア活動

4. 活動のポイント数等

- ・ ポイント付与方法 地域活動団体に委託
- ・ ポイントの上限なし
- ・ ポイント数は、未定ですが上限は設けた方が良い。
- ・ 還元方法については、ポイントを地域通貨に交換ができ市が指定した施設・サービス(例えばバスの運賃や福祉有償運送の利用料など)に交換
- ・ ポイント管理にはスマートフォン等 ICT を活用する。
- ・ ボランティア対象者 市在住 65 歳以上(高齢者の健康づくり・生きがいづくりの観点から)
- ・ 年間の上限 必要

5. 地域福祉活動との連動

- ・ 地域の福祉活動・見守り活動、高齢者の散歩の付添いでのポイント付与
- ・ 子どもの居場所等の見守りや遊びのボランティアへのポイント付与

6. 「緩和した基準による担い手養成研修」との連動

- ・ ボランティア活動から、希望者は「担い手養成研修」として総合事業の基準緩和型サービスにも連動させる仕組みの検討

7. 「地域包括支援センター」が関わる地域住民が参加する事業との連動

- ・ 川西市行方不明者 SOS ネットへの登録者へのポイント付与、
- ・ 認知症サポーター養成講座受講者のうち、キャラバンメイトや今後の「チームオレンジ」活動、認知症行方不明者 SOS 訓練の参加者、認知症カフェ運営や支援者へのポイント付与

8. 「社会福祉施設」の取り組みとの連動

- ・ ケアハウス等老人福祉施設でのボランティアを初心者でも安心して始めることができるシステムを作り参加する個人だけでなく、受け入れた団体も恩恵をうけるように検討する。
- ・ 介護施設等の福祉サポーターとして活躍した人へのポイント付与